### 特別分科会②【高大社連携キャリア教育】

2019 年度高大社連携フューチャーセッション 公開振り返り会

発表者▶ 高校生・大学生

コーディネーター▶ 杉岡 秀紀(福知山公立大学地域経営学部准教授)

コーディネーター▶ 鮫島 輝美(京都光華女子大学健康科学部看護学科講師)

「高大社連携フューチャーセッション」とは、高校生・大学生・社会人といった世代、学校間を越えて交流するキャリア教育企画である。今回の分科会では、9月22日京都市内、9月29日京都府北部にて開催した際に参加した高校生・大学生が集い、それぞれの会場で得た学びや気づきを振り返る公開振り返り会を行った。本会では、参加者が高校生・大学生の生の声を聴くことで、思考・行動のプロセスを体験し、質疑応答を通して対話の機会とすることを目指した。

#### 概略

前半はまずコーディネーターの杉岡秀紀准教授から本特別分科会の目的・目標・進行案について説明があった。次に2会場(9月22日の京都市開催回と9月29日の京都府北部開催回)の参加者16名でKPT(Keep・Problem・Tryの3つの視点から振り返る)という手法を用い、個人ワークを行った。その後、24名の見学者を迎え、鮫島輝美講師が9月22日に担当した「高大社連携フューチャーセッション@京都市内」のアンケート結果報告を行った。続いて、杉岡秀紀准教授が9月29日に担当した「高大社連携フューチャーセッション@京都府北部」のアンケート結果報告を行った。

中盤は KPT シートを活用して、グループで振り返りを行った後、ワールドカフェ(グループに 一人残し全員が別のグループに移動)という手法を活用し、グループを3回変えながら、全体で 気づきや学びを共有した。

後半は、フィッシュボール(金魚鉢)という手法を用いながら、会場との質疑、また「今後、ここで得た学びや気づきをどうしていきたいか」をテーマに一人一人決意表明をし、閉会した。

### 全体討論の内容

オブザーブされた見学者からは「だんだん仲よしに、発言が深くなっていく様子はよかった。Q&A、決意表明もすばらしかった」「高校生の考え方を聞くというのは日頃ない機会で、とても新鮮だった」「最後の学生たちのコミットと鮫島先生のコメントに、自分自身を顧みることができた」「生徒たちの変化の様子が見られて良かった。高校生と大学生のグループワークは学びが多そう。キャリアから進路につなげるスキル(次のステージへの移行のポイント)を知りたい」などのコメントが寄せられた。

以上の感想なども鑑み、本高大社連携フューチャーセッションは、①学校、学年、学校種、地域などの枠を超えて、つながれる(斜めの関係構築)、②「社会の教育力」を信じ、学校が送り出せる(教師・教員はその仕掛け役、架け橋役)、③学生が「主人公」となる場と機会になり得る、④学校・大学の外で社会(他者)と出会う機会となっている、と総括できる。

### 到達点と今後の課題

本年度の特別分科会②は、昨年度までと違い、フォーラム当日に「高大社連携フューチャーセッション」の振り返り会を実施した。この工夫(アレンジ)により、企画に参加した高校生や大学生の「生の声」や「学びや気づき」「成長の足跡」などが立体化でき、高校生、大学生個々人が内省しつつ、交流もできる機会を創造できた。加えて、見学者にとっても、2会場それぞれの善し悪しを1日かつ直接比較検証できる機会をつくれた。この一挙両得性が本セッションのねらいであり、言わば到達点と言えるだろう。アンケート(外部評価)でも、9割の参加者が「満足」もしくは「やや満足」と、比較的良い評価をいただけた。

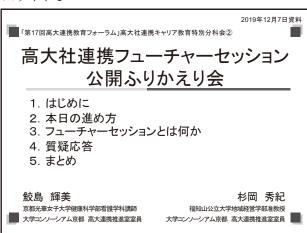
他方、課題としては、①参加できる学生に限りがあったこと、②簡単な写真とテキストだけでは、当日の機微を見学者に伝えにくかったこと、などが挙げられる。これらの点については今後の課題としたい。



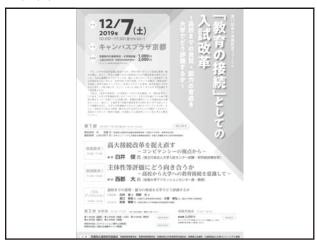








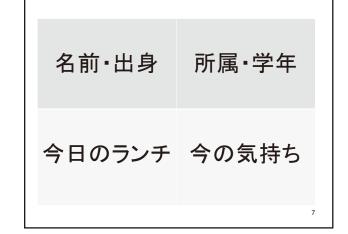
#### スライド2



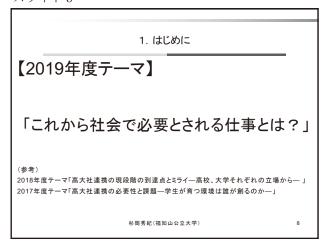
#### スライド3



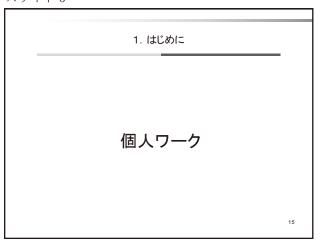
### スライド4

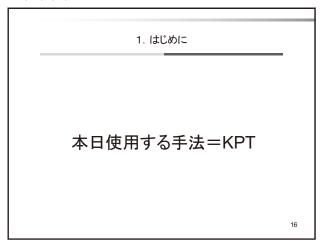


#### スライド5

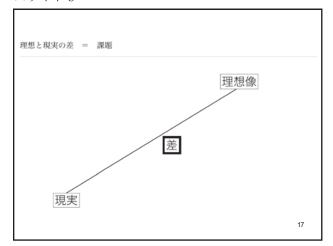


#### スライド6

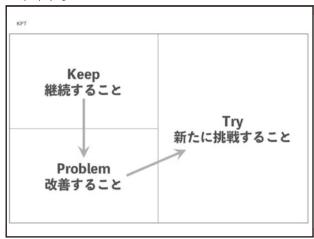




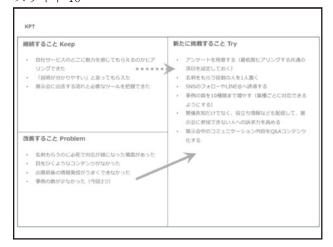
#### スライド8



### スライド9



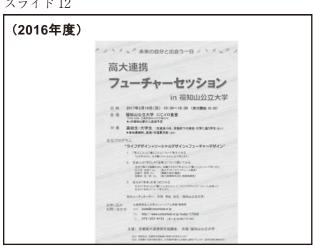
### スライド 10



#### スライド 11



### スライド 12





#### スライド 14



#### スライド 15



#### スライド 16



#### スライド 17



#### スライド 18

### 1. はじめに

### 【目的】

- ① 9月22日(京都市内)、9月29日(京都府北部)に実施する高大社連携フューチャーセッションの<u>効果を検証</u>するためにも、今年度も事業のフォローアップの機会を設け、<u>参加者の思考変容、行動変容について捕捉する</u>機会をつくる。
- ②この場を高大連携教育フォーラムの特別分科会に位置付けることで<u>京都内外の関心を持つ方々にも高校生・大学生たちの生の声を聞いてもらう</u>機会を提供する。
- ③高大連携の緩やかなコミュニティの場を創造しつつ、 次年度以降の事業を検討する材料につなげていく。

#### 1. はじめに

### 【目標】

- ①事業を通して、参加者一人一人が学び気づいた「<u>これから社会で必要とされる仕事とは?」という問いに対する考えや自分なりの「これからの人生に対する問い」のその後を見える化し、検証</u>する。
- ② 普段交わることのない他校の高校生・大学生間(とり わけ京都市内と京都府北部)で交流し、新たなネットワークを「再」創造するための機会を提供する。
- ③次年度のアイディアについて「経験者」ならではの奇譚 のない意見や「外部」視点からの提案をもらい、次年度 以降の事業を検討する材料につなげる。

1. はじめに

\*\*\*

\*\*\*

\*\*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

| \*\*

スライド21

#### 2. 本日の進め方

### 【本日午前のセッションより(1)】

主体性の育成

↓

受け身からの脱却

(出所)西郡大(佐賀大学)「主体性等評価をどう向き合うか」(2019)

35

#### スライド22

#### 2. 本日の進め方

### 【本日午前のセッションより(2)】

個人の頑張り ↓ 協同(働)学習

(出所)西郡大(佐賀大学)「主体性等評価をどう向き合うか」(2019)

36

スライド 23

#### 2. 本日の進め方

### 【本日午前のセッションより(3)】

### 未知な課題に対処する力

(出所)大西俊弘(龍谷大学)「高校までの資質・能力の育成をどう評価するか」(2019)

37

#### スライド24

#### 2. 本日の進め方

### 【進行案】

- (1)内部向け開会挨拶・事務説明
- (2)個人ワーク
- (3)外部向け開会挨拶・事務説明
- (4)ワークショップ①
- (5)ワークショップ②
- (6)会場(フロア)との質疑応答
- (7)講評
- (8)事務説明

38



スライド 26



### スライド 27

### 京都市内会場

NPO法人D×P 理事長 今井紀明氏

・高校時代 イラク拉致事件 社会的バッシングから引きこもりに ・大学時代 信頼できる友人との出会い

・親、先生、友達に否定され〈生きづらさ〉を抱えた 高校生の支援する仕事へ

ルールはひとつ「否定しない」こと

### スライド 28

# 満足した理由

- ・年代の違う人との交流
- ・興味深い話題
- ・視野が広がった
- ・新しい考え方をすることができた
- ・将来の活力になった

### スライド 29

# 社会で必要とされる仕事

- ・AIに仕事を取られることは怖いことではない
- ・自分の好きなこと興味があることが仕事につ ながる
- ・仕事とはどういうことかをもっと考える
- ・何のために働くのかを考え直す
- ・人と人とが関わる仕事が大切
- ・「自分の身の回りの課題を解決する」

#### スライド 30

# 気づきや学び

- ・色々な年代と交流することで意見が深まった
- ・経験をして自分を知り, 方向性を知る
- ・失敗を恐れないで、興味のあることを掘り下げる
- ・社会において必要とされる仕事に正解はない
- ・漠然とした不安ではなく、勇気をもらった
- ・AIに対する意見が多く偏っていると感じた
- ・自分の将来のためにたくさん知識が必要
- ・自分にはない価値観に触れ、視野が広がった

#### 2. 本日の進め方

### 【京都市内(9.29)アンケート結果】

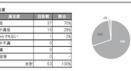


### スライド32

#### 2. 本日の進め方

高大社連携フューチャーセッション<京都府北部会場> アンケート結果(抜粋)

### 【京都市内(9.29)アンケート結果】





#### スライド33

#### 2. 本日の進め方

### 【田村篤史さん(ツナグム代表取締役)】

- 長岡京市生まれ。
- ・立命館大学時代に、APUに留学。
- 大学卒業後、海外放浪をし、人材派遣 の企業(東京)に就職。
- ・2012年に京都にUターンし、京都移住 計画設立。現在は大学キャリア系講義や 企業の採用支援・組織活性化を支援。47

### スライド34

### 2. 本日の進め方

### 【心に残ったキーワード】

- •正解主義<修正主義
- •計画的偶然性理論
- •「活」私奉公
- 知らない職業にはつかない。
- 嫉妬する人たちに出会えた。
- 寄り道して良い。
- ・夢中に働く。

48

### スライド35

#### 2. 本日の進め方

### 【満足した理由】

- 自分にはない意見がたくさん聞けた。
- 未知だったものが既知に変えられた。
- ・田村さんの話を聞け、視野が広がった。
- ・職というより、人生の生き方について幅 が広がった。
- 人と考えを共有する大切さをしれた。

### スライド36

### 2. 本日の進め方

### 【社会で必要とされる仕事】

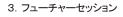
- ・感情、仕事の融合、人を癒す+助けるなど AIにはできないことを支えることが必要。
- 安定した将来をイメージしていたが、人と関 わること、寄り添うことが大事だと分かった。
- ・地域など人と人との交流の仕事は必要であ ることを自覚できた。
- ・個性ある仕事、個人を商品とする仕事。 50

#### 2. 本日の進め方

### 【気づきや学び】

- •正しさより楽しさ、自分から行動することの大切さ、 人と関わることの大切さ。
- ・自分が気になることにチャレンジして、自分の知識 を広げることが大事と思った。
- ・固定観念に縛られず、「自分らしさとは何か」を見 失わず、今後自分の進む道を決めて行きたい。
- ・価値観をどんどんアップグレードしていかなけれ ばならないと思った。

スライド38



### 【フューチャーセッション】



新たな価値を創造するため、多 様な価値観をもつ人々が対等 な立場で未来志向で議論し、 交流を深める場のこと。

異なる価値観、立場の方々が 交流することを通して、新たな る知恵を創造し、新規事業の 芽を見出していくことを目的とする

未来の価値を生み出すための対話

スライド39

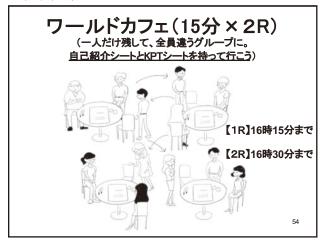
3. フューチャーセッション

### 【ワークショップ①】

「FC後に変わったこと、 変わらなかったこと」 (グループとしてのKPTシートを作る)

役割:司会、タイムキーパー、書記、発表

スライド 40



スライド 41

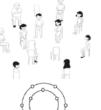
3. フューチャーセッション

### 【ワークショップ②】

「今後、FS得た学びや気づきを どうしていきたいか 1 (決意表明)

スライド 42

# フィッシュボール (決意表明シートを持って真ん中に集まろう)



内側・・・ 座談会グループ 外側・・・ 観察グループ

✓:全員が輪になって話し合います。

✔:内側に話す人、外側に聞く人にな ります

✔: 内側で話し終わって聞き手にまわ る場合は外側に出ます。外側で話し たくなった人は内側に入ります

✓: 話の長さに気をつけて下さい

✔:遠慮は無用です

スライド 44

#### 4. 質疑応答

# フロア(会場)との質疑

57

#### 5. まとめ

- ①学校、学年、学校種、地域など枠を超えて、繋がれる場(斜めの関係)を大切に
- ②「社会の教育力」を信じ、学校に入れる (教師・教員はその仕掛け役、架け橋に)
- ③「学生中心≠大人の都合」で常に考える